

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	下関市豊北町神田4611-2		
電話番号	083-786-0246	事業所番号	3570101943
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 21 年 9 月 14 日	評価確定日	平成 21 年 12 月 10 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人 非常勤 2 人 (常勤換算 10.8 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額	20,000 円		
	内訳	水道光熱費15,000円・日用品費5,000円		

### (4) 利用者の概要 (9月14日現在)

利用者数	7 名	男性 1 名	女性 6 名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	2	要介護5	
	要介護3	2	要支援2	
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 91 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 木本クリニック・さくら医院・重本病院 歯科 佐々木歯科医院
-------------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	浴室の構造は、スムーズで安全な入浴が出来るようになっており、職員との会話を楽しみながら入浴されています。入浴を嫌がる場合には、時間をあげ再度声かけをする等一人ひとりに合った入浴支援をされています。シャワー浴や足浴の支援と共に、清拭時には専用の電子レンジでタオルを温めて使用する等きめ細かな配慮をされています。家族会後の個人面談や畑で収穫した野菜料理のバイキング食事会、年2回程度の同伴外出等交流の場を大切に、要望の傾聴に努めておられます。
(特徴的な取組等)	運営推進会議のメンバー全員(26人)が火災、地震、水害等の緊急連絡網に記載されており、避難訓練も運営推進会議後に利用者と一緒に訓練する等協力体制が確立しています。漁業協同組合の地域への放送協力や地元消防団の協力等、事業所や利用者が安心安全な日々が送れるよう地域との連携が充実し、防災マップ作りの協力や施設独自の自営消防組織等様々な防災に関する取り組みをされています。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	重度化や終末期に向けての方針は家族会や全職員と話し合い、終末対応はしないが日常の健康管理や急変時の対応について医師、家族、関係者と方針を共有されています。服薬支援は、薬用ファイルを作成し、全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握する体制が出来ており、誤薬をしないように3度確認し、薬の手渡しと服薬の確認をされています。
(今回の自己評価の取組状況)	全職員に自己評価書のコピーを配布し一週間かけて記入後、ケア会議で全職員で検討し、確認して提出されています。新採の職員には、管理者が自己評価の意義について説明されています。職員にとっては、ケアの見直しや日々の支援の振り返りとなったと捉えておられます。
(運営推進会議の取組状況)	メンバーは26名で、協力員(元自治会長5名)、自治会長(3名)、民生委員(3名)、女性部(2名)、老人クラブ(2名)、子供会(1名)、学識経験者(2名)、緊急連絡員(1名)で年7回開催し、利用者や施設の現状、外部評価の報告、地域との合同夏祭り等の行事計画等について、熱心に議論をされています。
(家族との連携状況)	家族会で外部評価の報告や行事計画を検討したり、食事会や年2回の同伴外出、事後の個別面談等で連携を深め、ホーム便りは年6回発行し(利用者も編集に参加)、利用者の状況報告(個人の状況は担当者が手書きして同封)や職員紹介等を掲載し、請求書や領収書と一緒に送付されています。随時の報告は家族連絡ノートを作成されています。
(地域との連携状況)	年6回地域向けホーム便り(全職員紹介や行事予定等)を発行されています。ボランティア(お泊まり・畑づくり)や月1回のタマちゃん(猫の名前)喫茶に地域の人が訪れたり、保育園(七夕や運動会)・小学校・中学生(年末掃除)・高校生との交流や地域行事等(夏祭り・サイクリング大会の応援)へ参加をされています。

## 評価結果

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>				
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b></p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>理念について、職員全員で検討したが、これまでの理念を続ける事とし理念の共有を深め、さらに地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスを目指している。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b></p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所内(廊下)に掲示し、パンフレットやホーム便りに記載している。職員は、朝のミーティングで唱和し、日々のケアに取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>				
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b></p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事への積極的な参加や毎月1回施設内で喫茶(タマちゃん喫茶)を開き、地元の人々が気楽に立ち寄れる施設を目指し、交流に努めている。ボランティアの受け入れや保育園、小中高生との交流も盛んに行われている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b></p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価の意義を理解し、前年度の外部評価を回覧し、職員全員がケアを振り返り、ケア会議で話し合い、評価を活かした改善に取り組んでいる。</p>		
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b></p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>年7回運営推進会議を開催し、メンバーは26名と多く、外部評価の結果、現状報告等をし、意見を聞きサービスに活かしている。法人グループホーム(3ヶ所)との合同運営推進会議開催時には10名以上が参加者し、活発な意見交換をする事で、グループホームの理解や協力体制が整っている。</p>		
6 (11)	<p><b>市町との連携</b></p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>認知症を支える家族の会への参加や市保健師との交流、ホーム便りを配布する等情報交換をしている。事業所内研修に地域包括支援センター職員を講師に権利擁護に関する制度等の勉強会をする等、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践する為の体制</b>				
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年6回発行のホーム便り(施設内での暮らしぶり、職員紹介等)や請求書等を送付している。家族連絡ノート(随時用)を作成し来訪時に報告し、家族会との連携や介護記録の開示、金銭出納帳の確認等様々な機会を捉えて、定期及び随時に報告をしている。		
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会開催時に意見や要望を聞き、施設の運営に活かしている。相談・苦情受付窓口(玄関に意見箱を設置)、担当職員・外部機関・第三者委員を明示している。苦情処理マニュアル、苦情処理体制を明確に定めている。		
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況の変化、要望、行事等に柔軟に対応している。職員の病欠等には、管理者や公休出勤で対応し、夜間のお泊まりボランティア(延べ7人程度)の協力も利用者や職員の安心に繋がっている。		
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を抑える努力をしている。異動時には、家族会や来訪時、ホーム便りに掲載する等で職員紹介をしている。利用者へのダメージを防ぐため、新しい職員が早く馴染みの関係が築けるようベテラン職員との重複期間を2週間程度(早出2日、遅出2日、夜勤2日、日勤)取っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を段階に応じて育成する為、外部研修は勤務の一環として出席し、事業所においては、復命研修をする事で他の職員と共有している。その他に法人内研修への参加や事業所内での勉強会等働きながらトレーニングしていく事を進めている。資格受験には勤務調整で支援している。		
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の研修や交流会への参加、ブロック会議の研修(職員2名程度)参加、地域ケア会議後の情報交換、法人の3グループホームとの情報交換、合同運営推進会議等、積極的にサービスの質を向上させる取り組みをしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
13 (31)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族や本人に施設を見学してもらい、お茶を飲む等の時間を職員や利用者と共に過ごしている。隣接のデイサービスからの利用や、事前に自宅や病院、施設に向いて、本人や家族と話合う等馴染みの関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
14 (32)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	植木の剪定の仕方や青いトマトの調理法、落ち葉での堆肥作り、縫い物等を一緒にしながら生活の知恵を習ったり、「ありがとう」等感謝の言葉がけを大切に、支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
15 (38)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や縫い物をしている時、静かな会話ができる時などの日常会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するように努めている。家族の思いを充分に聞き、ケア会議やミーティング時に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
16 (41)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の希望は聞き、医師や職員の意見やアイデアを反映して計画を作成している。		
17 (42)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月毎のモニタリング、3ヶ月毎の評価、3ヶ月に1回の見直しと期間を定めて見直しを行うとともに、計画では対応出来ない状況の変化が生じた場合には、家族や医師等との話し合いで、現状に即した新たな計画を作成し、きめ細かな支援をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
18 (44)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診や往診の支援、美容院への送迎や付き添い、体調にあった外出支援、故郷訪問等柔軟な支援をしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、本人や家族等が希望する医師や医療機関と良好な関係を築きながら受診出来るよう支援している。受診結果の情報を家族に報告し、全職員が情報の共有をしている。		
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に事業所の方針を説明している。家族会での話し合いや医師の意見を参考に、事業所が対応し得るケアを説明し、重度化した場合や終末期のあり方を繰り返し話し合い、安心してサービスの利用出来るよう、職員も方針の共有をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルを作成し、日々の関わり方や声かけは管理者が指導している。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。記録物等個人情報は鍵のかかる場所での保管等取り扱いに注意をしている。		
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝、食事、入浴、洋服選び等、その時の本人の気持ちを大切に、散歩、ドライブや買い物等一人ひとりのペースに添って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食と夕食は施設内で調理し、昼食は配食サービスを利用している。調理・配膳・後片づけ等は利用者と職員が力を合わせ一緒に行っている。焼き魚や煮魚等好みによって調理方法を変えたり、畑で収穫した野菜の献立を利用者と一緒に考え調理している。		
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴でき、入浴時間は13時～16時30分頃で、利用者の体調等希望にあわせている。入浴支援をしやすい浴室で職員とお喋りしながらゆっくり入浴出来る。入浴を嫌がる場合は時間をあげ再度の声かけをするなど工夫し、シャワー浴、足浴、電子レンジでタオルを温めての清拭等多様な支援をしている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	習字、絵本読み、踊り、テレビ視聴、手足の運動、歌、生け花、風船バレー、雑巾縫い、外回りの清掃、花壇の手入れ、ヘチマの収穫、畑作り、サイクリング大会の応援等活躍出来る場面を多くし、役割や楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	家族との同伴お出かけ(年2回)、季節毎の花見(菖蒲、紫陽花、コスモス、紅葉等)、買い物、散歩、ベランダでの食事会、海へのドライブ、故郷訪問等一人ひとりのその日の希望に添って、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	具体的なマニュアルを作成している。身体拘束による弊害について全職員が理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。毎年、勉強会をしている。(今年度は12月に計画している。)		
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が、日中玄関の鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知した時には、さり気なく声かけや見守りをして、利用者が出かける時には寄り添い一緒に出かけている。		
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の勉強会や、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはっと・事故報告書が整備され、未然に防ぐ検討をしている。家族への電話で報告し、家族連絡ノートに記入し、来所時に記録の確認をしてもらっている。		
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回は消防署の協力指導で応急手当(止血法等)の訓練をしているが、日常的な定期訓練は実施されていない。		・職員全員が完全にマスター出来るような定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、夜間想定も兼ねた避難訓練を利用者と一緒に実施している。緊急連絡体制の確立(運営推進委員会の全メンバーも参加)や、漁協の放送、消防分団の協力もある。地震・風水害火災発生時の対応マニュアルも作成している。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬ファイルを作成し、全職員が薬の内容把握に努め、誤薬防止の為3度の確認をし、薬を手渡し服薬の確認をしている。症状変化の確認に努め、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	一人ひとりの状況に応じた支援をしている。義歯は毎晩消毒し、歯ブラシの清掃は週1回、衛生チェック表を作成(カップ・歯ブラシ・義歯)したり、歯科医による口腔ケアの指導も受けている。		
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量の記録をして日々の状態の把握に努めている。職員に栄養士が居り、カロリーや栄養のバランスを考えて献立作成に工夫している。誤嚥対策として、お粥やとろみ食等個別の食生活の支援にも気をつけて支援している。		
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、ケース会議で手洗い方法等感染防止の勉強会をし、手洗い、うがいの励行をしている。手すり、洗面所、便座、椅子の消毒は1日1回実施し、消毒したハンカチでの手拭きなど感染予防を実行している。利用者、職員は毎年インフルエンザの予防接種を受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関の生け花、洗面所等に季節の花や植木鉢を置いて季節を感じられる工夫をし、古い着物を利用し仕切りや短冊ケース、薬の入れ物が作られ、和やかな雰囲気である。畳の間や廊下の腰掛け等居場所の工夫がされ、周囲の自然や道行く人や車が見え、地域の中での生活が満喫できる工夫がされている。		
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	箆笥、小卓、椅子、衣装ケース、テレビ、写真等使い慣れた物や好みの物を活かして、こざっぱりとした部屋で穏やかに過ごせるような工夫をしている。		

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	下関市社協グループホームしまど
所在地	下関市豊北町神田4611-2
電話番号	083-786-0246
開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日

## 【サービスの特徴】

山があり海があり自然に囲まれたのんびりとした環境の中で生活しております。地域の方々が気軽に声をかけ、ホームの存在もわかって頂けたように思います。開設して、今年で4年、本当に地域に支えられてホームが成り立っているのだと思います。ボランティア活動も盛んで、夜間時地域の方がお泊りをしていただくことも続いています。志ただ菜園これは地域の方々畑のボランティアさんがおられ入居者の方と交流がもてております。ホームに飼い猫のタマちゃん、入居者の心を和ませてくれています。運営推進会議のメンバーの数も多く、今年の夏祭り8月26日には、多くの地域住民の方々のご協力があります。ホーム便り毎月発行(地域向け6回、家族向け6回)啓発活動で地域版は回覧で地域に回しております。

## 【実施ユニットの概要】 ( 8 月 17 日現在 )

ユニットの名称	ない			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	6 名	男性 0 名	女性 6 名	
	要介護 1	1	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 91 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	7月27日に全職員へ自己評価表を渡し新しい職員には説明をする。次回ケア会議時(8月5日)に全項目について自己評価に記入点検をし協議をする。
評価確定日	平成 21 年 8 月 5 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>理念について思いを聞きスタッフ全員で考えたが現状の理念が合っていると考えが一致し変えないで前の理念を今年度も掲げている</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>地域の方から独居で認知症状がある方の相談を受けデイサービスなどの紹介ケアマネに繋げたり、地域の方へ裁縫の得意な利用者さんが雑巾を作って渡し感謝される等取り組みができています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度の外部評価を回覧し職員全員ケアを振り返りケア会議等で話し合いできることから改善し日々の行動に活かすようにしている。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催し出席も17名と多くその際にはホームの現状報告をし地域の方からの意見を聞くようにしている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症を支える家族会にも参加し市の保険師との交流を持ちホーム便りなどを持って行き情報交換をしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	職員内部研修を計画し包括支援センターの職員に来てもらい研修をした。現在その不安を持たれる利用者はおられない。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員内部研修で在宅介護支援センターの職員に来てもらい説明を受け研修を行った。職員は常に意識するように気をつけている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族との連絡を密にとり納得が得られるまでゆっくりわかりやすく対応をしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の話をゆっくりと耳を傾け聴きスタッフで話し合い反映させている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	変化があるときはその都度家族に連絡し家族の来訪時に報告、金銭出納帳にも確認とサインをいただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ホームへの来訪者がいつでも見れるようにカウンターに開示している。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	重要事項説明書に明記し説明をしている。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議にて研修の復命、提案、職員の意見を聞く場を設け反映している。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態によって勤務を厚くしたり家族と連携をとり対応している。職員の病欠や急な休みの場合なども管理者、公休出勤で調整をしている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なるべく異動がないようにしているが変わる場合にはさりげなく交替するようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年から情報公表が始まり職員の育成にも年間計画を作成し少しずつ取り組んで行っている。社協の職員研修会にも交代で参加するなど働きながらトレーニングしている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	男女20代から60代いろいろなスタッフがいる。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	社協のグループホームが3箇所あり管理者連絡会議等で情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケア会議時職員からの意見やアイデアを反映し訪問時家族からの希望、主治医からの指示等を伝えて介護計画を作成している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化、利用者の体調の変化で家族、主治医に相談助言を頂き新たな計画書を作成している。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の様子を記録し毎朝のミーティングに話し合い個別に介護計画の目標達成出来たかのチェックが出来るようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診の支援、美容院、ふるさと訪問外出、柔軟な支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方との避難訓練、お泊りボランティア畑ボランティアの方とのかわりをしている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアの見学、研修の受け入れをしている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	デイサービスの利用者との交流など利用者の体調によっては訪問看護の受け入れ等支援をしている。利用者の体調によっては福祉用具のサービスを支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	記録等の取り扱いに気をつけている。ミーティング時イニシャルトークにしている。	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	暮らしの中で本人が好きのように出来ることを決め納得できて暮らせる支援をしている。(何でも話せる環境作り)	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	家事、調理、配膳、かたづけ等利用者の出来る力を大切にしている。	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人ひとりのペースにあわせて様子を見ながら支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	本人が昔からのなじみの美容院に行ったりホームに訪問美容室がきておしゃれが出来るよう支援している。	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	利用者と職員と一緒に食べるようにしている。	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	本人の状況を考えながら支援している。	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	利用者の排泄パターンを排泄チェック表で把握し支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		家族会でのおでかけ(年2回)ぐらい
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		通信、広報の郵送、家族への手紙もだしている。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		なじみの方がいつでも来れるよう支援している。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		玄関は開けている。利用者の思うよう行動できるように支援している。
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		自分が行きたい場所に行き過ぎておぼろげにするようにしている。鍵はかけないようにしている。居間のところは洗濯物干しが出来るところを開け職員の目に見えないサッシはかけている。
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		さりげない声かけ様子をみて安全に気をつけている。
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		注意の必要なものには工夫をして危険なく過ごせるようにしている。包丁を持たれて食事の下ごしらえ等には職員が一緒にかかわるなど
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		誤薬等について見やすいよう個別に仕分けし間違わないよう気を付けてリスクを予期し職員と話し事故防止につとめている。
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		消防署の指導をおねがいしている。  9月に避難訓練時研修予定
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリハット報告書にかいて再度職員で事故再発防止に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には季節の花を活け落ち着いた感じがあり安心できる空間作りをしている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	洗面所トイレなどにも花を置き季節感や生活感を感じられるように工夫をしている。写真もはっている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	出来るだけ居間で過ごすようにしてその方その方気の合う人同士でソファーに座り過ごされている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の状況を考えながら支援している。家具を持ち込み居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度を常にチェックし過ごしやすい環境をつくっている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりの設置廊下も段差なし。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	いつもの場所にいつもの物があるように工夫をしている。	
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭に花壇があり花の手入れ玄関前の花を見て楽しんでいる。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない